

令和2年度 自己評価書（設置者・園長等 管理職編）

○子どもが主体的に取り組める保育ができたか。

- ・子どもの興味や関心に沿った活動内容に、少しずつ変化している。保護者が決めたもの(事)を提供するのではなく、子どもから出た感性や発想を取り入れたり、考慮している。
- ・子どもがやってみたいと思えるような教材を用意し、環境を整え、経験したことなどを作品展や劇遊びに広げていった。

○感染症対策を考慮した生活環境の見直しがあったか。

- ・机の数を増やし、4人掛けを基本にしたり、保育者の食事は子どもと距離をとるようにした。手洗い・うがい・消毒の徹底。入室の際の消毒など、子どもにも習慣が身についてきている。
- ・園庭でのサーキット遊びを定期的に入れ、継続するなど、体力の向上に取り組んできた。

○異年齢交流によって、異年齢に対しての気持ちが育ったか。

- ・感染症対策により、クラスごとの交流は控え、触れ合いもやめた。行事を互いに見るなど今できる範囲での取り組みにとどまり、感染対策をとりながら他に何が出来るかを今後模索する必要がある。
- ・自分の学年に気持ちが寄りすぎて、3学年での共通理解が難しかった。

○保護者への発信が増やせたか。

- ・感染対策で。保護者が来園の機会は最小限となった。園の様子を発信するため、ユーチューブなど使って動画を定期的にアップするようになったが、保護者の求めるものはさらに大きいと思うので、回数を増やせると、なお良い。
- ・学年だよりでは、子どもの様子が分かる様に写真を増加し、読みたいと思えるような紙面作りをし、何が育っているのかを書きそえるようにした。